広報 教育あきる野

平成 18 年 9 月 15 日

編集・発行 / あきる野市教育委員会 〒197 - 0814 あきる野市二宮 350 🛣 042(558)1111(代)

テレビの見方に注意しよう

テレビの見方を工夫して、子どものうちにしか体験できない大切な活動時間を増やしましょう。 との信頼関係を築こう

家族がお互いを認め合い、信頼し合うこと、居心地のよい家庭づくりの基本です。 家庭でも本を楽しもう

読書は、想像力や集中力を高めたり、自発性・自主性といった心を育てます。





魅力ある授業づくり研修会 (2~3年次教員研修)



平成18年度・あきる野市教育推進スローガン

あきる野の教育

あきる野市では、家族のコミュニケーションを深め、親子の絆を深めるとともに、明る い家庭づくりに努めていただきたいという願いを込めて、毎月第2日曜日を「家庭の日」 として設定しています。次の「家庭の日」は10月8日(日)です。

が晩年にこの大悲願寺を訪れた悲願寺に宛てた書簡です。政宗台藩主であった伊達政宗が、大台藩主であった尹達政宗が、大

境内に咲く白萩

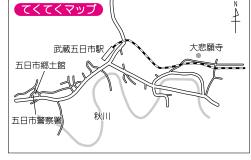
厳しかった夏の暑さも通り過 をで知られる横沢の大悲願寺には、「萩の寺」としても有名で をで知られる横沢の大悲願寺は、「萩の寺」としても有名で は壮観で、境内が狭く感じるようになりますが、秋の をです。 は北観で、境内が狭く感じるに は、「萩の寺」としても有名で は、「萩の寺」としても有名で は、「萩の寺」としても有名で は、「萩の寺」としても有名で は、「萩の寺」としても有名で は、「萩の寺」としても有名で は、「萩の寺」としても有名で は、「萩の寺」としても有名で は、「京村の変いこ が残されています。今回は、これ がです。 むかし発見 てくてくあきる野 大悲願寺白萩文書第四話「伊達政宗と しょうか。 しょうか。 は有名ですが、仙台藩の祖に有名ですが、仙台藩の記将で、独田の元和では有名ですが、仙台藩の記名でする。 この元和九年(一六二三)の元和九年(一六二三)の元和九年(一六二三)が割りません。しかし、『伊達政宗は石がます。政宗公伝でしょうか。書簡により、江戸時代の武将で、独眼流の名では九月」とだけしから、『伊達の情では九月」とだけしから、『伊達の情では九月」とだけしから、『伊達の情では九月」とだけしか。書簡により、江戸時代があるる存在では九月」とだけしから、『伊達の神学の情では九月」とだけしから、『伊達の神学の情では九月」とだけしか。書簡により、江戸時代がある存在では九月」とだけしか。書簡により、江戸時代があるる存在では九月」とだけしから、『伊達政宗の書簡により、『伊達政宗の書簡により、『伊達政宗の書簡により、『神学政宗は神学の書簡により、『神学政宗は神学政宗は神学の書では、『神学政宗は神学政宗は神学である。

時、庭の白萩がひときわ見事に 時、庭の白萩がひときわ見事に いようか。

は、古記録にあるように出流なは、古記録にあるように出流なは、古記録にあるように対流でしょうが、この名高い海管僧正との対面と、弟秀雄との再会という目的もあったと考えられています。
一個和四百年後の今、私たちは、大きな目的もあったと考えられるながら、二人の対面は、大きな目が、こうしたが、こうしたが、こうしたの対面は、大きなお重要な地位にありましたでしょうが、こうした政宗にとって、第四の百年後の今、私たちはありませんが、学り五日市町と仙台市がら、二人の会話に思いをでしょう。

「四百年後の今、私たちは、特に興味のでながら、二人の会話に花を咲かせたことでしょう。の音音が、僧正、か。萩の陰から秋の虫がであったのでながら、二人の会話に花を咲かせたことが。新秀雄との再きなが、一旦、楽しい萩を眺めながら、いるがでしょう。と、美しい萩を眺めながら、いるがでしょう。まではありませんが、寺をはありませんが、寺をはいかがでしょう。と、表はいかがでしょう。と、表はいかがでもったと考えらが、一旦、大きなものではいかがでもった。ことでは、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きなが、一旦、大きながでもった。

大悲願寺





コーディネーターの会」が、あきる野市生涯学習 たが